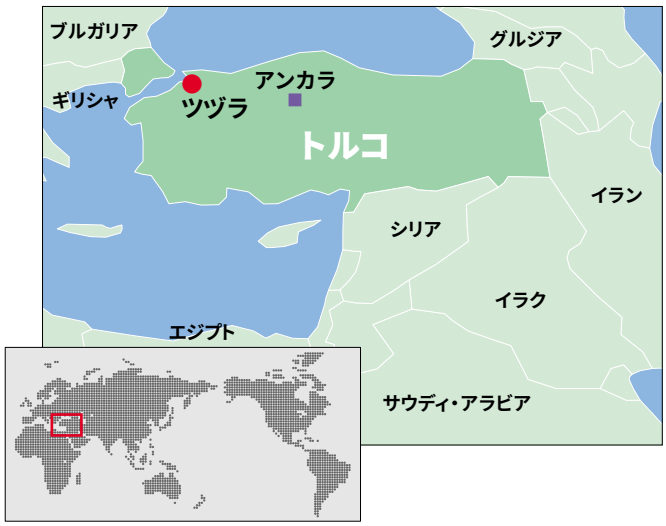
トルコ

ツヅラ職業技術訓練高校プロジェクト



実施地域

ツヅラ

1．プロジェクト要請の背景

トルコ政府は、第５次国家開発５か年計画（1985～1989年）において、近年の急速な工業発展に伴う同国の社会・産業構造の変革に対応したバランスの取れた社会・経済開発目標を設定し、この目標を達成するための人材育成計画の推進に力を注いでいた。特に、電気・電子・コンピューター科学の技術者が不足しており、こうした人材を育成するための職業技術教育の充実が急務であった。

このような状況のもと、トルコ政府は、ツヅラ職業技術高校の訓練水準を向上するため、我が国にプロジェクト方式技術協力を要請した。

2．プロジェクトの概要

(1) 協力期間

1987年10月１日～1992年９月30日

1996年４月１日～1997年３月31日（アフターケア協力）

(2) 援助形態

プロジェクト方式技術協力

(3) 相手側実施機関

教育省、ツヅラ職業技術訓練高校

(4) 協力の内容

1） 上位目標

トルコにおいて、社会経済開発に必要な人材が育成される。

2） プロジェクト目標

ツヅラ職業技術訓練高校において、電気・電子・コンピューターの３分野における先進的な技術者教育を実施する。

3） 成果

a） 電気科、電子科の職業教育コースを設立する

b） 電気科、電子科、コンピューター科の技術教育コースを設立する。

4） 投入

日本側

長期専門家　12名

短期専門家　18名

研修員受入　23名

機材供与　約6.30億円

トルコ側

カウンターパート

ローカルコスト　約1.50億円

3．調査団構成

JICAトルコ事務所

（現地コンサルタント：REFORMに委託）

4．調査団派遣期間（調査実施時期）

1998年９月９日～1998年10月23日

5．評価結果

(1) 効率性

本プロジェクトの活動計画は綿密に立案され、日本側、トルコ側双方の各種投入も計画どおり適切に実施された。

双方の関係者による合同調整委員会も十分機能し、関係者の意欲の高さや勤勉さに支えられ、本プロジェクトは円滑に進んだ。

また、1996年４月から１年間、アフターケア協力を実施し、最新機材を供与するとともにその操作・指導

のための短期専門家２名を派遣したことも、ツヅラ職業技術訓練高校における教育活動の拡充に効果的であった。

(2) 目標達成度

本プロジェクトでの技術移転を通じ、カウンターパートの技術力は大いに高まった。プロジェクト期間中、カウンターパートは専門家と協力して61の教科書原稿を作成し、プロジェクト終了後も27の書籍を独自に作成･出版した。また、カウンターパートはビデオ10本、OHP1,135枚、スライド227枚、プロトタイプマシーンや試験モジュール80件など、多くの教材も作成した。

ツヅラ職業技術訓練高校では、同じく本プロジェクトで作成された教育カリキュラムのもと、これらの教科書や教材を用いて訓練が行われた。その結果、同校の教育内容の充実と質の向上が図られ、同校はトルコの中堅技術者教育のモデルとなった。

(3) 効果

カウンターパートが作成した教科書原稿や本の大半が、その後教育省の認定教科書となっている。カリキュラムも、その後教育省によって認定され、他の技術高校で使用されている。また、本プロジェクトを通じ教員の能力が間接的、直接的に向上した結果、68名の教官のうち、教育省より、56名が表彰を受け、17名が特別手当を受けた。

ツヅラ職業技術訓練高校では、教育省プログラムの一環として、夏期休暇時に全国の技術学校の教員を対象とした研修を開催している。同研修では、プロジェクトで作成された教科書や教材、カリキュラムが用いられており、プロジェクトの成果がトルコ全体の職業技術教育の向上に貢献している。また、ツヅラ職業技術訓練高校では、民間の人材を対象にした研修も実施するなど、職業技術の普及に努めている。

(4) 計画の妥当性

本プロジェクトはトルコ政府の第５次国家開発５か年計画に沿ったものであり、トルコのニーズに合致していた。トルコには、現在も595校の技術学校があり、職業技術教育の向上に対する需要は大きいことから、本プロジェクトの妥当性は高いといえる。

(5) 自立発展性

ツヅラ職業技術訓練高校に対するトルコ政府からの予算は十分とはいえないものの、校庭の貸し出しや募金活動などの自助努力を行いつつ、活動を継続している。

訓練機材については、老朽化して故障しているものも一部あるものの、おおむね良好に維持管理されている。

カウンターパートの定着度も高く、各学科の主任は現在も日本人の元専門家と連絡を保ち、最新の技術を吸収する努力をしている。ただし、あと２～３年で退職する教員に替わる人材の確保・補充が必要である。

6．教訓・提言

(1) 提言

ツヅラ職業技術訓練高校は、日本から吸収した最新技術を国内に広く普及しようと努めており、このことは高く評価される。しかし、同校の予算や職員数には、今後の新しい技術をさらにフォローしていくうえでどうしても一定の制約があるため、我が国としても、機会を捉えて適宜協力し、同校の自立発展を支援していくことが望ましい。